

# マルタニシ

*Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens)  
新生腹足目・タニシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

## 選定理由

かつては水田がある場所ではよくみられた種であったが、圃場整備により水田が乾田化されたことや、平野部では稲作の早期中干しによる乾田化、さらに、水質汚濁に強いヒメタニシが本種の生息地に分布を広げており、個体数は減少している。

## 種の特徴

殻高 40 mm前後で螺層が著しく丸みを帯びた卵円形の止水性のタニシ。縫合は深く、緑がかった黒い殻皮に、2、3個の目立たない螺肋と刻点状の彫刻がある。水田や湿地、水路や小川等年間を通じて極度に乾燥しない場所に生息する。

## 分 布

国内では北海道から沖縄にかけて分布する。県内一円に分布すると考えられるが、生息地や生息個体群は減少しつつある。

## 生息を脅かす要因

圃場整備による水田の乾田化、さらに農業用水のパイプライン化により本種の生息環境が減少している。また、水質汚濁の影響を受けやすいため、近年、本種が生息していた場所は汚濁に強いヒメタニシに置き換わっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

# モノアラガイ

*Radix auricularia japonica* Jay  
異鰓目・モノアラガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

日本各地に分布し普通種とされていたが、水質汚濁、圃場整備による排水路のコンクリート化により本種の生息地は減少している。

## 種の特徴

殻高 25 mm、殻径 20 mmで蓋はなく卵円形をしている。薄質、半透明で右巻きである。螺塔が極めて低く、殻口が殻高の4/5を占め大きく開く。池沼や水田、川の淀み等の水草やれきに付着している。

## 分 布

日本全国に分布する。県内各地の環境の良い小川や農業用ため池等の水域に生息しているが、生息地、個体数ともに激減している。

## 生息を脅かす要因

生活排水の流入や農薬の使用による水質悪化、圃場整備や河川改修による生息環境の直接改変が減少の大きな要因となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

# ヨコハマシジラガイ

*Inversium jokohamensis* (Ihering)  
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

県内の分布は比較的広い。ただ、既知の生息地は平野部の小河川や水路、農業用排水路等比較的小さな環境が多く、河川や水路の改修工事等生息地ごと壊される。県内での生息地、生息数とも減少傾向にある。

## 種の特徴

殻は楕円形で、殻長は最大で 70 mm前後の中型の淡水二枚貝。殻頂は前方に偏る。殻頂部付近に弱い粒状の彫刻がある。擬主歯と後側歯がある。殻色は黒褐色。生息環境は水のきれいな小河川や水路、農業用排水路等穏やかな流水域で、泥底～砂れき底部に生息する。

## 分 布

日本固有種。山陰地方、近畿地方から北海道南部に分布する。本県ではあわら市～高浜町まで広範囲に分布するが、既知の生息地は分断され少ない。

## 生息を脅かす要因

水のきれいな小河川や水路、農業用排水路等の砂れき底に生息する。コンクリート化等の工事による生息環境の破壊が最も大きな要因と考えられる。共生するコイ科、ハゼ科への影響も危惧される。

参考文献 福井県編（2002）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、増田・内山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○							○				